

2020.8.20 年間第 20 主日

カナンの女

マタイ福音書 15 章 21-28

(そのとき、) イエスは、ティルスとシドンの地方に行かれた。すると、この地に生まれたカナンの女が出て来て、「主よ、ダビデの子よ、わたしを憐れんでください。娘が悪霊にひどく苦しめられています」と叫んだ。しかし、イエスは何もお答えにならなかった。そこで、弟子たちが近寄って来て願った。「この女を追い払ってください。叫びながらついて来ますので。」イエスは、「わたしは、イスラエルの家の失われた羊のところにしか遣わされていない」とお答えになった。しかし、女は来て、イエスの前にひれ伏し、「主よ、どうかお助けください」と言った。イエスが、「子供たちのパンを取って小犬にやってはいけない」とお答えになると、女は言った。「主よ、ごもつともです。しかし、小犬も主人の食卓から落ちるパン屑はいただくのです。」そこで、イエスはお答えになった。「婦人よ、あなたの信仰は立派だ。あなたの願いどおりになるように。」そのとき、娘の病気はいやされた。

説教

一休さんというむかし話があります。意地悪な大店の店主が店の前の橋に「このはしわたるべからず（『この橋を渡るな』の意）」と看板を掲げていました。しかし一休さんは、「この端（はし）渡るべからず」と切り返し、橋の真ん中を堂々と渡った、というような頓智話です。きょうのカナンの女の福音を読んでいて一休さんの頓智が思い浮かびました。

<あきらめない>

カナンの女が出て来て、「主よ、ダビデの子よ、わたしを憐れんでください。娘が悪霊にひどく苦しめられています」と叫んだ。15:22

いきなり女性が出てきてイエスにまとわりつきますが、イエスは「何も答えない」無視します。弟子たちがイエスに追っ払ってくださいとお願いすると、

イエスは女性に語りかけます。女性はそのチャンスを逃しません。

<謙遜>

女は来て、イエスの前にひれ伏し、「主よ、どうかお助けください」と言った。

15:25

「ひれ伏す」日本流に言えば土下座です。女性はイエスに謙遜をからだごと表現します。そして助けてくださいといえすにお願いします。ところがイエスはそっけない返事をして断ります。

<ユーモア>

主よ、ごもつともです。しかし、小犬も主人の食卓から落ちるパン屑はいただくのです。15:27

イエスの拒絶に女性は機転をきかして頓智（ユーモア）をもって切り返します。この女性の返答を聞いたイエスは女性を称賛し願いをかなえます。

「婦人よ、あなたの信仰は立派だ。あなたの願いどおりになるように。」そのとき、娘の病気はいやされた。15:28

きょうの福音では「あきらめない気持ち」「謙遜」「ユーモア」を学びましょう。娘の心配で心がいっぱいなのははずなのにユーモアを忘れずイエスに頼み込むカナンの女性は福音書に登場する人物のなかでも印象深い女性です。頓智の効いたカナンの女性の受け答えが際立つ福音です。

ところで、福音書を楽譜のように読んでみたらどうだろう、と思いつきました。カナンの女のようにユーモア心（ごころ）をもって福音に接してもいいんじゃないの？という気がしました。

音楽は譜面を見て演奏します。だんだん上達してくると譜面を読んでどう解釈するか、作曲家の意図はなんだろうと考えて譜面を読み込んで演奏していきます。初心者なら、とにかく譜面通りに演奏することを心掛けるでしょうが、それだけではなんか物足りない、自分らしさを演奏に出してみようって気持ちになってきます。

福音もだんだんと読み込んでいくうちに、深いところに触れたように思う時

があります。それを音楽演奏にたとえてみたらどうでしょう、という提案です。イエスとカナンの女性が奏でるきょうの福音箇所のように福音を豊かに歌えるようになると素敵だと思います。
